

# 平成30年3月期 第2四半期 決算説明会

平成29年11月10日



OBUYASHI

大林組

## 免責事項

当資料に記述されている業績予想並びに将来予測は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため実際の業績は、様々な要因の変化により、記述されている将来の見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

# 平成30年3月期 第2四半期 決算実績説明

## 連結経営成績

- 第2四半期実績 -

別冊「決算説明資料」、1ページ「サマリー情報」上段  
連結経営成績をご覧ください。

### <連結経営成績>

売上高	9,174億円	(対前年同期比 + 6.8%)
営業利益	623億円	(対前年同期比 + 5.4%)
経常利益	660億円	(対前年同期比 + 10.0%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	483億円	(対前年同期比 + 16.4%)

→ 前年同期に続き、全ての項目で過去最高値を更新

### <配当の状況>

第2四半期末14円 + 期末14円 = 年間配当28円

配当予想の修正なし

## 個別損益計算書トピック - 第2四半期実績 -

資料2ページ「ハイライト情報」上段右側  
個別第2四半期実績(前年同期比)をご覧ください。

### 〈完成工事高〉 6,334億円 (前年同期比+243億円)

建 築 4,971億円 (前年同期比+266億円)

→大型工事の順調な進捗による

土 木 1,363億円 (前年同期比△22億円)

### 〈完成工事総利益〉 819億円 (前年同期比+65億円)

建 築 591億円 (前年同期比+49億円)

利益率 11.9% (前年同期比+0.4pt)

土 木 228億円 (前年同期比+16億円)

利益率 16.8% (前年同期比+1.5pt)

→建築は完成工事高の増、土木は一部の採算の良い工事による

5

## 連結損益計算書トピック - 第2四半期実績 -

資料5ページ「売上高・利益の内訳」上段  
連結売上高、連結営業利益(前年同期比)をご覧ください。

連結全体として「個別の国内建築」の増収増益の影響が大きいが、子会社側のトピックについて

### 〈連結売上高内訳〉

海外建築 1,802億円 (前年同期比+225億円)

→主な内訳 米国子会社ウェブコー1,026億円 (+373億円)

国内土木 1,617億円 (前年同期比 +82億円)

→主な内訳 大林道路 518億円 (+73億円)

### 〈連結営業利益内訳〉

不動産事業 34億円 (前年同期比△7億円)

→主な内訳 大林新星和不動産 40億円 (△3億円)

その他事業 19億円 (前年同期比+9億円)

→主な内訳 大林クリーンエナジー 16億円 (+12億円)

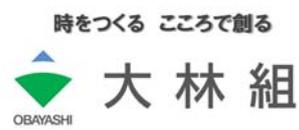
減価償却方法の変更による増(定率法→定額法)

(参考) 主要子会社の業績は決算参考資料12ページに記載

6



# 業績見通しについて (平成30年3月期)



- 平成30年3月期の通期業績見通しおよび「中期経営計画2017」の進捗状況について説明します。

## 2017年度業績見通し(連結)

	2015年度		2016年度		2017年度			前年実績との差異 B-A
	実績		実績 A		上期		通期見通し	
	連結	単体	連結	単体	8月8日発表値	実績	B ※	
売上高	17,778	12,350	18,727	13,040	9,250	9,174	19,150	422
					6,410	6,402	13,250	209
建設事業	16,957		18,025		8,900	8,834	18,320	294
建築事業	12,709		13,883		6,760	6,849	13,850	△33
土木事業	4,247		4,141		2,140	1,985	4,470	328
開発事業	470		387		185	181	440	52
新領域事業	234		219		120	130	260	40
その他	116		94		45	28	130	35
営業利益 (営業利益率)	1,063 (6.0%)	763 (6.2%)	1,337 (7.1%)	1,082 (8.3%)	600 (6.5%)	623 (6.8%)	1,345 (7.0%)	7
					480 (7.5%)	504 (7.9%)	1,070 (8.1%)	△12
経常利益	1,112		1,401		630	660	1,400	△1
親会社株主に 帰属する 当期純利益	634		945		430	483	950	4

※8月8日発表値から変更なし

OBAYASHI

9

### 2017年度業績見通し(連結)

- ・上期の実績はほぼ発表値どおりとなり、通期についても計画どおり順調に推移しており見通し値に変更はありません。
- ・売上高(2014年度以降4年連続)および営業利益、当期純利益(2015年度以降3年連続)で過去最高を更新する見通しです。
- ・主要指標については次のとおりです。

＜売上高＞ 1兆9,150億円 (前年度比+422億円)

＜営業利益＞ 1,345億円 (前年度比+7億円)

＜営業利益率＞ 7.0% (前年度比▲0.1ポイント)

＜経常利益＞ 1,400億円 (前年度比▲1億円)

＜親会社株主に帰属する当期純利益＞ 950億円 (前年度比+4億円)

## 2017年度業績見通し(単体)

		2015年度		2016年度		2017年度						前年実績との差異 B-A	
		実績		実績 A		上期			通期見通し				
						8月8日発表値	実績		B ※				
完成工事高	建築	9,084		9,915		4,790	4,971	9,950			34		
	土木	2,979		2,943		1,550	1,363	3,100			156		
	計	12,063		12,858		6,340	6,334	13,050			191		
不動産事業等売上高		287		181		70		67		200		18	
売上高		12,350		13,040		6,410		6,402		13,250		209	
完成工事総利益	建築	856	9.4%	1,194	12.0%	560	11.7%	591	11.9%	1,230	12.4%	35	0.3pt
	土木	451	15.1%	472	16.1%	225	14.5%	228	16.8%	445	14.4%	△27	△1.7pt
	計	1,307	10.8%	1,667	13.0%	785	12.4%	819	12.9%	1,675	12.8%	7	△0.1pt
不動産事業等総利益		63		51		20		17		50		△1	△3.3pt
売上総利益		1,371		1,718		805		837		1,725		6	△0.2pt
販管費及び一般管理費		607		636		325		333		655		18	0.1pt
営業利益		763		1,082		480		504		1,070		△12	△0.2pt
経常利益		828		1,165		520		558		1,150		△15	△0.3pt
当期純利益		507		841		370		410		820		△21	△0.3pt

※8月8日発表値から変更なし

OBAVASHI

10

### 2017年度業績見通し(単体)

- ・連結業績と同様に、通期の見通し値に変更はありません。
- ・主要指標については次のとおりです。

<完成工事高> 1兆3,050億円 (前年度比+191億円)  
 【建築】 9,950億円 (前年度比 +34億円)  
 【土木】 3,100億円 (前年度比+156億円)

<売上高> 1兆3,250億円 (前年度比+209億円)

#### <完成工事総利益・利益率>

【建築】 1,230億円 (前年度比+35億円)  
12.4% (前年度比+0.3ポイント)  
 【土木】 445億円 (前年度比▲27億円)  
14.4% (前年度比▲1.7ポイント)  
 【建土計】 1,675億円 (前年度比+7億円)  
12.8% (前年度比▲0.1ポイント)

<営業利益> 1,070億円 (前年度比▲12億円)

<経常利益> 1,150億円 (前年度比▲15億円)

<当期純利益> 820億円 (前年度比▲21億円)

## 中期経営計画2017の進捗状況(主な経営指標)

	2016年度 実績 (連結)	2017年度 上期末実績 (連結)	中期経営計画2017 2021年度末 B/S (連結)
自己資本額	5,941億円	6,519億円	9,000億円
利益剰余金	3,349億円	3,697億円	7,000億円
自己資本比率	29.5%	32.1%	40%
ネット有利子負債	787億円	1,258億円	ゼロ
有利子負債	2,733億円	2,910億円	2,500億円
現預金	1,945億円	1,651億円	2,500億円
	2016年度 実績 (連結)	2017年度 通期見直し (連結)	中期経営計画2017 2021年度 P/L (連結)
売上高	18,727億円	19,150億円	2兆円程度
営業利益	1,337億円	1,345億円	1,500億円程度
親会社株主に帰属する当期純利益	945億円	950億円	1,000億円程度
1株当たり当期純利益(EPS)	131.66円	132.35円	150円程度
自己資本当期純利益率(ROE)	17.0%	14.8%	10%超の水準

※2017年度末自己資本額は、上期末実績に下期当期純利益見直し及び中間配当支払予定額を加減算して算出

OBAYASHI

11

### 中期経営計画 2017 の進捗状況 (主な経営指標)

- ・ 経営指標についても目標達成に向けて順調に推移しています。
- ・ 主な経営指標については次のとおりです。

＜自己資本額＞           **6,519 億円** (前年度比+577 億円)  
     利益剰余金           3,697 億円 (前年度比+347 億円)

＜自己資本比率＞           **32.1%** (前年度比+2.6 ポイント)

＜ネット有利子負債＞   **1,258 億円** (前年度比+471 億円)

    有利子負債           2,910 億円 (前年度比+176 億円)

    現預金               1,651 億円 (前年度比▲294 億円)

(ネット有利子負債は、当上期に大林道路の完全子会社化などの投資を進めたことにより増加)

＜1株当たり当期純利益 (EPS) >   **132.35 円** (前年度比+0.69 円)

＜自己資本当期純利益率 (ROE) >   **14.8%** (前年度比▲2.2 ポイント)

(当期純利益は前年度と同水準の一方、自己資本額が利益計上などにより積み上がることから ROE は低下する見通し)

## 中期経営計画2017の進捗状況(分野別の取り組み)

### 国内建設

#### ◇働き方改革の推進

- 建設業を将来の担い手にとって、より魅力のある産業とするため積極的に推進
- ・働き方改革推進プロジェクトチームを発足

#### ◇生産性向上への取り組み

- ・IoT、AI、ロボティクスなどの技術革新を取り込んだ省力化構工法の開発

【現場ロボット溶接工法】



現場溶接作業の省力化と接合部の高品質化を実現

【4パラマッタスクエア】



【物件概要】  
施工場所：ニューサウスウェールズ州/パラマッタ市（豪州）  
用途：（地上部）事務所、店舗（地下部）駐車場他  
構造：RC造（一部S造）地上39階・地下4階  
延床面積：地上72,700㎡+地下22,000㎡

OBAVASHI

12

### 分野別の取り組み

#### 【国内建設】

##### ◇働き方改革の推進

- ・将来の担い手にとって建設業をより魅力のある産業とするため、積極的に「働き方改革」を推進しています。
- ・本年9月には、長時間労働の削減および休日取得促進を目的として「働き方改革推進プロジェクトチーム」を設置し、社長直轄で各種施策の立案・遂行を進めています。
- ・工事現場では4週8閉所の実施・定着を目指していきます。

##### ◇生産性向上への取り組み

- ・現場作業の効率を上げるために、IoT、AI、ロボティクスなどの技術革新を取り込んだ省力化構工法の開発を推進しています。
- ・掲載の写真は、当社が開発した鉄骨柱・梁の溶接作業のすべてを自動化する「現場ロボット溶接工法」の適用事例です。

#### 【海外建設】

##### ◇オセアニアでの事業拡大

- ・オセアニアでの事業拡大を目指し、昨年11月に業務協力協定を締結したBuilt社とJVを組み、オーストラリアで「4パラマッタスクエア新築工事」を受注しました。

## 中期経営計画2017の進捗状況(分野別の取り組み)

### 開発

#### ◇IoT、AI等イノベーションを活用した施設運営の推進

- ・当社グループ保有の賃貸ビル（oak神田鍛冶町）にて次世代ビルマネジメントシステムの実証運用を開始

【oak神田鍛冶町】



### 新領域

#### ◇再生可能エネルギー事業の拡充

- ・三種浜田風力発電所（秋田県三種町）竣工（6MW/2017年11月運転開始）
- ・大月バイオマス発電所（山梨県大月市）建設中（14.5MW/2018年8月運転開始予定）

【三種浜田風力発電所】



【大月バイオマス発電所】

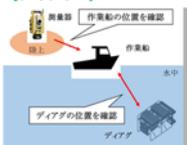


### 技術

#### ◇技術革新を推進

- ・遠隔操作が可能な水中インフラ点検ロボット「ディアグ®」を開発
- ・再生可能エネルギーによりCO<sub>2</sub>フリー水素を製造する水素エネルギーシステムを構築（2018年4月完成予定）

【ディアグ®】



OBAVASHI

13

### 【開発事業】

#### ◇IoT、AI等イノベーションを活用した施設運営の推進

- ・2017年9月から大林新星和不動産が所有するoak神田鍛冶町（2017年8月完成）において、IoT技術を用いて建物内外の多様な情報を集約しAI技術を活用することにより建物利用者の快適性・利便性を高め、最適な建物管理を実現する次世代ビルマネジメントシステムの実証運用を開始しました。
- ・今後は本システムを、BIMデータと連携することや、複数の建物から収集したビッグデータとAI技術を用いて施設運営を最適化するエリアマネジメントシステムへ発展させることをめざしていきます。

### 【新領域事業】

#### ◇再生可能エネルギー事業の拡充

- ・太陽光発電事業では計画していた発電所すべてが稼働しました。（発電規模129MW）
- ・秋田県の三種浜田風力発電所が2017年9月に竣工、山梨県の大月バイオマス発電所の建設を進めるなど、再生可能エネルギー事業を拡充しています。今後は洋上風力や地熱、小水力発電なども推進していきます。

### 【技術】

#### ◇技術革新を推進

- ・遠隔操作が可能な水中インフラ点検ロボット「ディアグ」を開発し、国土交通省による「次世代社会インフラ点検ロボット技術公募」に採択され、最高ランクの評価を獲得しました。
- ・当社の技術研究所において、再生可能エネルギーを利用してCO<sub>2</sub>フリー水素を製造する水素エネルギーシステムを構築して、製造、貯蔵、利用の各段階で実証を行う予定です。（2018年4月完成予定）

## 中期経営計画2017の進捗状況(投資計画)

	2017年度 上期実績	中期経営計画2017 2017~ 2021計画	
		年度平均	2021計画
建設技術の研究開発	85億円	200億円	1,000億円
工事機械・事業用施設	39億円	100億円	500億円
不動産賃貸事業	254億円	200億円	1,000億円
再生可能エネルギー事業ほか	98億円	200億円	1,000億円
M & Aほか	255億円	100億円	500億円
<b>合計</b>	<b>733億円</b>	<b>800億円</b>	<b>4,000億円</b>

**【不動産賃貸事業】**



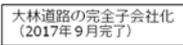
赤坂インターシティ AIR  
(持分取得)

**【再生可能エネルギー事業ほか】**



日向日知屋太陽光発電所  
(24.5MW/2017年5月運転開始)

**【M & Aほか】**



大林道路の完全子会社化  
(2017年9月完了)

### 中期経営計画 2017 の進捗状況 (投資計画)

- ・中期経営計画 2017 の 5 年間で 4,000 億円 (年度平均 800 億円) 投資する計画に対し、上期の投資 (733 億円) は順調に進捗しました。

以上